

中近東アフリカチーム 西山徹部会長に聞く エリア全体の開発戦略が重要

今月は、中近東アフリカチームの部会長を務める日本橋トラベラーズクラブの西山徹代表取締役社長に、厳しい市場環境が続く同方面の現状認識や活動の方向性などについて、語っていただきました。

現地関係者との緊密な情報交換を

——中近東アフリカ方面における現状についてのご認識をお聞かせください。

西山 旅行会社にとっては、大きなポテンシャルを秘めたデステイネーションであることは間違いありませんが、残



西山徹 日本橋トラベラーズクラブ代表取締役社長

念ながら、最近では「治安面での不安」という問題を恒常的に抱えているのも事実です。しかし、逆に、その問題をクリアするため、実際に中近東アフリカ方面へ旅行するに当たって、旅行会社が十分なセーフティネットを用意した上で、現地との関係者と緊密な情報交換や連携を行い、「安心」とともに旅行サービスを提供するという旅行会社本来の機能を発揮できるエリアでもあると考えています。また、治安面だけでなく、現地での移動や言葉の問題、訪問先における宗教的・文化的な制約や民俗・習慣の違いなど、旅行者の皆様をサポートしなければならぬ部分も多いので、旅行業界の役割や存在意義といったものをアピールすることができるとも思っています。

——部会としての具体的な活動については、どのような方向性でお考えでしょうか。

西山 中近東アフリカでも、世界の他のエリアと同様に、国や地域をカバーする現地での旅行見本市などが開催されていますから、積極的にそういった場を

活用できる展開を図っていく必要があると思っています。アウトバウンド促進協議会では、現地側のサプライヤーである航空会社やホテルといった民間事業者だけでなく、「海外旅行の復活」に向けて政府観光局や大使館などの公的な組織や団体なども参画して活動を行いますから、官民双方の関係者による協力もいただき、旅行見本市と並行して実施されるマートや商談会、フアムトリップなどを、日本の旅行会社が活用できるようにサポートしていくことが重要だと考えています。

「異日常」の魅力を掘り起こす

——「安心安全」は近年、世界各地で旅行者が関心を寄せる大きなテーマになっていますから、中近東アフリカ方面はその試金石ということでしょうか。

西山 そうです。同時に「付加価値創造」も旅行業界にとってのもう一つの重要課題となっているわけですが、中近東アフリカ方面は価格競争を繰り広げるデステイネーションではありませんので、逆に、旅行者の皆さんに旅行商品の内容によつて海外旅行へのモチベーションを持っていただくという意味合いで、旅行会社の腕の見せ所であるということも言えるかと思えます。中近東アフリカという

地域全体が治安の問題を抱えているように見られがちですが、「安心安全」をめぐむ状況は個別の国々で異なっていますから、その見極めを行っていくことも重要なポイントになってきます。

——旅行需要の創出や新たな市場の開発という側面からも、旅行会社の真価が問われることになりそうです。

西山 そうした旅行会社の役割を十二分に発揮していくために、まずは、エジプトや南アフリカ、アラブ首長国連邦など、中近東アフリカ方面の中核となるデステイネーションで現地との太いパイプを作っていくながら、ケニアやモロッコ、イランといった国々への旅行需要も広げていくというようなエリア全体としての開発戦略を想定する必要もあるだろうと考えています。海外旅行に出かけるモチベーションとしては、リゾート・デステイネーションのように「非日常」を求める場合と、日本では体験できない自然や文化などの「異日常」を希求するケースがあるわけですが、中近東アフリカの場合、明らかに後者に当てはまる国々が多いと思いますので、その魅力をどう掘り起こして旅行商品としてマーケットに提示していくのかを追求していかなければなりません。